

## 経済指標解説

2014年8月22日

# 主要な経済指標の発表予定と予測

## (8/25~8/29)

経済調査部  
松浦大将  
03-3591-1435  
hiromasa.matsuura@mizuho-ri.co.jp

【来週の注目材料】※ ( ) 内はみずほ総研予想

- 29日 : 7月の鉱工業生産指数 (前月比+0.6%、前年比▲0.5%)
- : 7月の全国消費者物価指数 (除く生鮮) (前月比+0.1%、前年比+3.3%)
- : 8月の東京都区部消費者物価指数 (除く生鮮) (前月比+0.0%、前年比+2.6%)
- : 7月の小売業販売額 (前年比▲0.3%)、大型小売店販売額 (前年比▲1.5%)
- : 7月の全世帯実質消費支出 (前年比▲2.4%)、勤労者世帯実質消費支出 (前年比▲3.2%)
- : 7月の有効求人倍率 (1.11倍)、7月の完全失業率 (3.6%)
- : 7月の住宅着工統計 (季節調整値年率87.3万戸、前年比▲10.7%)

### 大幅な貿易赤字が続く

20日に発表された7月の貿易統計では、輸出数量(みずほ総合研究所による季節調整値)が前月比▲0.2%(6月同+2.0%)と2カ月ぶりに減少したものの、4~6月期比で見ると+0.4%と小幅ながら増加した。米国向けでは主力の自動車輸出の落ち込みが続いているが、全体としてみれば円安や海外経済の回復を背景に輸出は回復に向かっている。また、輸入数量は原油・粗油が減少したことなどから前月比▲2.3%(6月同+6.7%)となった。ただし、7月の水準は4~6月期を1.2%上回っており、内需が消費増税後の落ち込みから徐々に持ち直していることを受けて輸入は増加基調に転じつつある。貿易収支(原数値)は▲9,640億円と大幅な赤字が続いた。

### 2カ月ぶりの増産

来週は、鉱工業生産指数、消費者物価指数などの重要指標が発表される。  
29日発表される7月の鉱工業生産指数は前月比+0.6%(6月同▲3.4%)、と予測する。在庫調整を進める輸送機械は減産するが、はん用・生産用・業務用機械や化学などは輸出拡大のための生産が増加するとみられることから、生産指数は2カ月ぶりに前月比プラスとなる見込みである。

### 全国コアCPIの伸びは 前月から横ばい

同日に発表される7月の全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合、以下コアCPI)は前年比+3.3%(6月同+3.3%)、8月の東京都区部コアCPI(中旬速報)は同+2.6%(7月同+2.8%)と予測する。電気代やガス代、耐久消費財の前年比上昇幅が縮小する一方、航空運賃や高速道路料金などの上昇幅が拡大し、7月の全国コアCPIの伸びは6月から横ばいとなる見通しである。

一方、都区部のコアCPIはエネルギー関連や宿泊料などの伸びが縮小し、前年比プラス幅が0.2%Pt縮小するとみられる。

### 個人消費は緩やかに改善

同日発表される7月の小売業販売額は前年比▲0.3%（6月同▲0.6%）、大型小売店販売額は同▲1.5%（6月同▲1.8%）と予測する。また、7月の実質消費支出（家計調査ベース）は全世帯が前年比▲2.4%（6月同▲3.0%）、勤労者世帯は同▲3.2%（6月同▲4.5%）と予想する。7月上旬は天候不順を受けて飲食料品や夏物衣料などの販売が低迷した模様である。しかし、中旬以降はエアコンや冷蔵庫を中心に家電販売が好調だったほか、飲食料品販売も持ち直したとみられる。小売業販売額、大型小売店販売額、実質消費支出はいずれも前年比マイナス幅が縮小する見通しである。

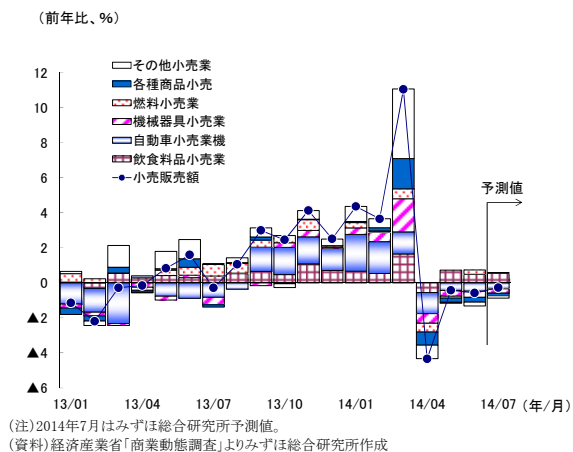
### 有効求人倍率、失業率とも改善

同日発表される7月の雇用関連指標は、有効求人倍率が1.11倍（6月1.10倍）、失業率は3.6%（6月3.7%）と予測する。建設や外食、物流を中心に労働需給がひっ迫していることから、失業率・有効求人倍率はともに改善する見込みである。

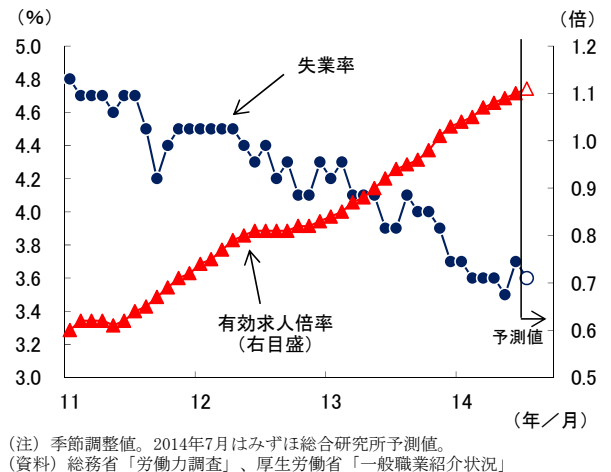
### 住宅着工は前月比マイナス

同日発表される7月の住宅着工戸数（季節調整値）は年率87.3万戸（6月同88.3万戸）、前年比▲10.7%（6月同▲9.5%）と予測する。持家で駆け込みの反動減が続いていることや、建設コストの上昇などによりマンションの着工計画が先送りされていることから、着工戸数は前月比マイナスとなる見込みである。

図表1 小売業販売額の推移



図表2 有効求人倍率と失業率の推移



執筆担当～ 松浦大将

予測担当～ 消費者物価指数：風間春香、鉱工業生産指数：坂中弥生、

消費・雇用関連統計・住宅着工統計：齋藤周

米国主要経済指標（ダイアリー掲載分）：山崎亮

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

## 【 来週のダイアリー 】

日付	経済指標等	予想	前回	前々回
8/22(金)	米 イエレンFRB議長講演 (ジャクソンホール)			
8/25(月)	米 新築住宅販売件数(7月) 年率	[44.0万件]	40.6万件	44.2万件
	独 i f o景況感指数(8月)	107.0	108.0	109.7
8/26(火)	日 内閣府月例経済報告(8月)			
	40年利付国債入札			
	米 耐久財受注(7月) 前月比	[+3.5%]	+1.7%	▲0.9%
	カンファレンスボード消費者信頼感指数(8月)	[89.5]	90.9	86.4
	S&P/ケース・シー-住宅価格[20都市](6月) 前年比	+8.2%	+9.3%	+10.8%
	2年国債入札			
8/27(水)	米 5年国債入札			
8/28(木)	日 2年利付国債入札			
	米 GDP(4~6月期暫定) 前期比年率	[+3.8%]	4~6月速報 +4.0%	1~3月期 ▲2.1%
	失業保険新規申請件数(~8/23)	[300千人]	298千人	312千人
	中古住宅販売仮契約指数(7月) 前月比	+0.3%	▲1.1%	+6.0%
	7年国債入札			
8/29(金)	日 鉱工業生産(7月速報) 前月比	[+0.6%]	▲3.4%	+0.7%
	消費者物価(7月全国) 前年比	[+3.5%]	+3.6%	+3.7%
	[除・生鮮食品] 前年比	[+3.3%]	+3.3%	+3.4%
	消費者物価(8月東京都区部) 前年比	[+2.6%]	+2.8%	+3.0%
	[除・生鮮食品] 前年比	[+2.6%]	+2.8%	+2.8%
	完全失業率(7月)	[3.6%]	3.7%	3.5%
	有効求人倍率(7月)	[1.11倍]	1.10倍	1.09倍
	実質消費支出[全世界](7月) 前年比	[▲2.4%]	▲3.0%	▲8.0%
	大型小売店販売額[既存店](7月速報) 前年比	[▲1.5%]	▲1.8%	▲1.2%
	小売業販売額(7月速報) 前年比	[▲0.3%]	▲0.6%	▲0.4%
	新設住宅着工戸数(7月) 季調済年率	[87.3万戸]	88.3万戸	87.2万戸
	米 個人所得(7月) 前月比	[+0.3%]	+0.4%	+0.4%
	消費支出(7月) 前月比	[+0.2%]	+0.4%	+0.3%
コアPCEデフレーター(7月) 前年比	[+1.5%]	+1.5%	+1.5%	
ミシガン大消費者信頼感指数(8月確報)	[80.6]	8月速報 79.2	7月確報 81.8	

予想：[ ]はみずほ総合研究所予想、それ以外はコンセンサス(Bloomberg等)。予定は変更になる可能性があります。  
日：日本、米：米国、独：ドイツ